

超高齢化の日本:板ばさみの世代

By Deanna Elstrom, Fumiya Shirahama and Takayuki Higuchi



いろいろな意味で、日本は、人が「全盛期」を過ごす理想的な場所であるように見えます。平均寿命は世界最高の84歳を誇り、人口の28%が65歳以上(対して、0-14歳は13%)」で占められています。ですから、自身が高齢となっても、間違いなくたくさんの仲間と過ごすことができるでしょう。また、高齢者は適切なケアを受けることもできます。日本は、全国民に長期の医療保障を提供し、質の高い医療を公平に手ごろな価格で利用できると保証しています。2そのため、OECD諸国の中では、GDPに占める医療支出の割合が6番目に高い国となっています。安全で清潔な公共スペース、最高水準の公共交通機関、そ

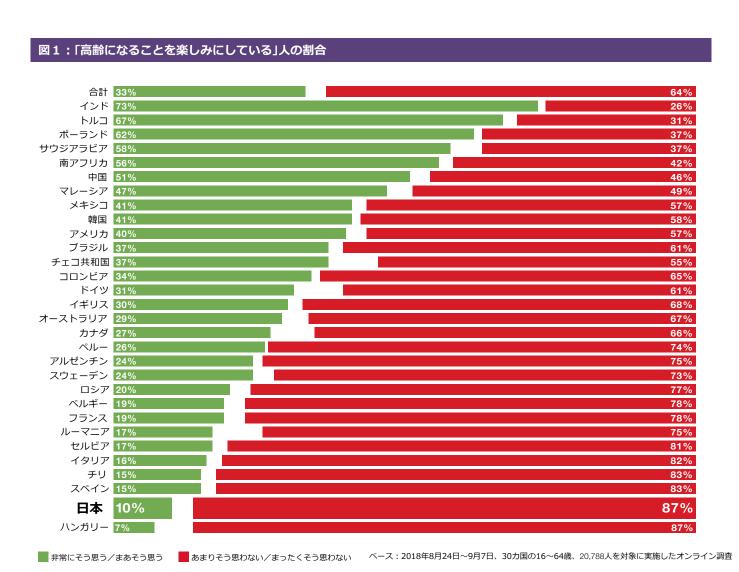
して儒教的に孝行(年配者に対する敬意)を重んじる 伝統が根付く日本では、高齢化についても比較的前 向きな見通しが期待できそうな気がします。

しかし、イプソスが高齢化³ について実施したグローバルアドバイザー調査では、日本で「自身が高齢になることを、楽しみにしていない」と回答した人が87%にのぼっています。一方で「楽しみにしている」と回答した人はたったの10%でした。これは、調査対象30カ国平均の33%を大きく下回っています。日本よりも「自分が高齢になること」に悲観的だったのはハンガリー国民(7%)だけでした。(図1参照)

なぜここまで悲観的?

これらの調査結果を国別で比較する際に注意すべきことがあります。イプソスグローバルアドバイザー調査の対象者は、各国の実際の年齢層を反映しているということです。日本の年齢中央値(46.9歳)⁴ はマレーシア(28.5歳)やペルー

(28歳)など他の対象国よりもはるかに高いため、調査に回答した人々の多くは個人的に高齢化の経験に精通しています。高齢の親の介護をしている中年の人たちにとって、高齢化の現実はまさに真に迫った、身に染みて感じる現象なのです。この身近さが否定的な評価につながった理由かもしれません。



打ちのめされている感覚

世界に類を見ない「超高齢化社会」®の日本では、年金額の減少や消滅、社会保障給付の受給資格の延期、高齢者による高齢者の介護(老老介護)、増え続ける老人の一人暮らしと孤独死の問題など、政府やメディアによるこの世の終わりのような予測が絶え間なく聞かれます。現状でさえ脅威だらけの日本ですが、歳をとるにつれて、日に日に脅威が増していくようです。日本の経済、社会、国民はみなそれぞれ、これまでどこでも経験したことのない規模とスピードで変化する人口統計に圧倒されています。現在

のスピードで行けば、現在1億2,600万人いる日本 人口は、2060年にはその3分の1が減少し、8,700 万人になると予測されています。

一方、高齢者依存率(就業年齢人口に占める高齢者人口の割合)は、すでに2015年には44%と、OECD諸国の中で最も高い数値を記録しました。そして2050年までには73%に達すると予測されています。6 このような中、医療費と社会保障サービスの支出が急増しており、日本の政府債務残高はGDPの220%近くにまで達しました。これは、OECD諸国の中では過去最高の水準となっています。7

これまでとは変ってしまった

イプソスの高齢化に関するアンケートによると、高 齢化に対するマイナスの感情は45~54歳の人口層で 最も強く表れています。この年齢層の93%は「自身 が高齢になることを、楽しみにしていない」と回答 しているのです。戦後の工業化の中、高度経済成長 期を経て成人となり、80年代後半の「バブル時代」 の勢いを経験し、相対的に社会・経済の安定を知っ ている親世代とは対照的に、現在45~54歳の世代 は、バブル崩壊後、数十年にわたって経済・企業再 編が行われた時期に成人しました。成人期を過ごし た時代背景には、経済の縮小、不安定さ、世界にお ける日本の力と地位の低下がありました。ですか ら、この世代は、自身が高齢になるまでには社会福 祉が大幅に縮小する可能性をしっかりと認識してい ます。イプソスの「世界が懸念していること」調査 においても、人口の3分の1が「社会保障制度の維 持」を最大の懸念事項として挙げており、この懸念 の大きさが映し出されています。イプソスの高齢化 に関するアンケート調査では、日本人は、「自身が 高齢になること」を7番目に大きな懸念として捉えて おり、「懸念している」と回答した割合は60%でし

た。そして、これは、45~54歳の世代で最も深刻 な懸念(67%が「そう思う」と回答)となっていま す。

社会保障制度の縮小に対する懸念が深刻化させてい るのは、社会的格差の拡大です。65歳以上の日本人 に見られる所得格差は、OECD諸国平均を大きく上 回っており、特に女性においては顕著です。75歳以 上の女性のおよそ4人中1人が貧困所得線以下の生活 を送っていますが、OECD諸国平均ではおよそ7人中 1人です。11過去数十年にわたる経済収縮、停滞、そ して最近の成長鈍化の影響が続いています。企業再 編によって、安定した終身雇用の職の多くは、徐々 に保障や福利厚牛のない低賃金の契約職に置き換え られていきました。現在、労働力の40%がこのよう な契約職で、そのうち3分の2は女性です。今後数 十年で退職する、「正規」雇用による保障と利益を 享受してこられなかった人々が最も弱い立場なので す。所得格差の拡大は高齢期に入ってもさらに続 き、年金受給者と非受給者の間の財政状況の格差は 極端に拡大します。寿命が延びたことと、男女間に 格差があることが、この問題を悪化させていま



高齢になることの「良い点」と「悪い点」

日本人が高齢化について感じる懸念の多くは、世界の人々の懸念と類似しています。日本人の高齢化の懸念ワースト3は、「移動力を失うこと」「生活のためのお金が十分にないこと」「記憶がなくなること」で、これは世界の平均と一致しています。一方で「痛みを感じる」「孤独で寂しい」「自立した生活できない」という懸念に日本人が悩まされる傾向は、世界平均より一様に低くなっています。

他の人を介護することに関しては、世界平均よりも強い懸念を示しています。これはおそらく、すでに高齢者の介護を行っている、中年や高齢の親族がいるからでしょう。現在、日本には65歳以上の人が3,500万人、うち80歳以上の人が1,100人、さらにそのうち90歳以上の人が220万人もいるのです。 8 そして日本人の寿命がかつてないほど長くなり、多くの人々が加齢に伴う病気に罹患し、その治療が特に負担になっています。例えば、認知症は現在、日本人の4%(500万)が罹患しており、2030年までに6~7%に増加すると予測されています。9

日本人が選んだ「高齢になる上で最も良い点」は世界の人々のそれと類似していますが、温度差があります。日本で強い反応が引き出された選択肢は「生活のペースがゆっくりになる」ことだけでした(日本26% vs 世界平均20%)。ほとんどの回答者が「高齢化の良い点」として選んだものを見ると、自由な時間がもっと欲しいと願っていることがはっきりわかります。「趣味・娯楽の時間が増える」(日本32% vs 世界平均32%)、「友人・家族と過ごす時間が増える」(21% vs 36%)、「休暇・旅行の時間が増える」(20% vs 26%)などです。

日本人が「友人・家族と過ごす時間が増える」を選ぶ割合は、世界平均を下回っています。この結果は、今日の日本人家族は小規模化し、地理的にも分散するようになったことを反映しているようです。過去50年間で日本の人口は都市部に集中するようになり、都市部で暮らす人の割合は全体の93%にまで上昇しました。明確に違う男女の役割を担う日本の夫と妻の核家族では、個々の社会が育まれます。それは「これからはもっと一緒に時間を過ごそう」という考えに消極的な理由の一つかもしれません。

その他、注目すべき相違点としては、高齢化で「楽しみにしていること」として「経済的に安定する」を選択した日本人が5%に止まったということです(世界平均は20%)。このことは多くの日本人が将来の経済に不安を感じていることを表しています。

うるさい老人たち

近年「老害」という言葉が一般的になってきました。この用語は「高齢者による迷惑行為」と定義され、明らかな意図をもって列車を遅らせたり、公共の場で若者をしかりつけたりして社会的混乱を引き起こす出来事を指しています。10 実際、調査結果では世代間の摩擦や高齢者と若年者の間に二極化した見方があることがわかります。「人々は高齢者を尊重していない」に「そう思う」と回答したのは32%、「そう思わない」は24%と意見がわかれています。ご想像のとおり、「そう思う」と回答する傾向が高かったのは45-65歳の年齢層で、16-44歳の年齢層ではその傾向は低いという結果でした。

図2:「人々は高齢者を尊重していない」に「そう思う」と回答した割合(%)



図3:「高齢者が持つ政治的影響力は大きすぎる」に「そう思う」と回答した割合(%)



■ 非常にそう思う/まあそう思う ■ あまりそう思わない/まったくそう思わない ベース:2018年8月24日~9月7日、30カ国の16~64歳、20,788人を対象に実施したオンライン調査

高齢者が、"あまりにも大きな政治的影響力"を行使しているという認識も、摩擦のもう一つの原因です。 調査対象国の国民の中で「高齢者が持つ政治的影響力は大きすぎる」に同意する割合が最も高かったのは日本人(日本42% vs 世界平均29%)でした。中でも、最も強く同意していたのは最も若い年齢層でした(56%)。

驚くべき調査結果としては、「敬老の日」という祝日がある国であるのに「高齢の親族の介護を担うのは若者である」という項目に同意する割合が比較的低いことがあります(日本23% vs 世界平均57%)。さらに複雑なのは、これに同意する割合が最も低い年齢層が55-64歳であるということです。この年配世代は若い親族に介護に対する責任を感じてほしくないのでしょうか。

しかし、この年齢層の日本人は、子育てと生計を立 てることの板ばさみである上に、高齢の親や親族を 積極的に介護している層です。彼らにとっては、そ れは日常的な義務であり、何の理論もありません。

年齢を感じるとき

日本を訪れると、あなたが想像できる最も丈夫で健康な高齢者を目にすることができることでしょう。こうした高齢者はスポーツクラブやプールに集い、ウォーキングにでかけたり公園で運動をしています。彼らは、健康的で伝統的な食事をとり、みな同様に質の高い医療を受けています。それでも調査結果では、高齢期になっても丈夫で健康であること予想している日本人の割合は比較的低いのです(日本23% vs 世界平均57%)。繰り返しになりますが、この調査の対象者はその国の人口構成を反映しているということを注意しなくてはなりません。日本は他の対象国よりも全体の年齢が高いため、すでに高齢化の影響を日々感じている傾向があります。

また、世界最長の平均寿命を維持しながら、死ぬまで健康な身体を維持するのは大変難しいことです。 高齢化に対する期待が薄いのは、日本人の完璧主義 傾向に起因している可能性もあります。健康的な食 事と運動のための努力はいくらでもできるのです。



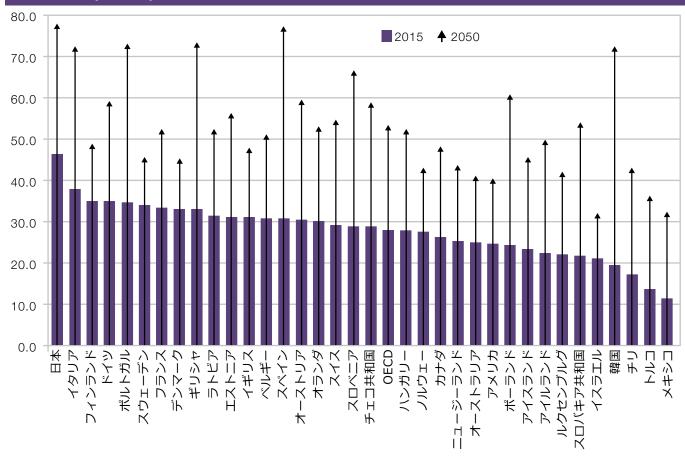
最初であり、最後ではない

日本は高齢者の割合が世界一高い国ですが、他の国でも同様の状況が見られます。実際、多くの国が日本よりも高い割合で高齢化しています。国連は、2050年までにスペインも同様に「超高齢化」し、韓国も僅差でその後に続くと予想しています。

離れたところから日本を異質と見なすのではなく、 むしろ日本は地球規模の行動の触媒となることができ る国です。最良のアイデアを一つにまとめて行動に移 すための、一種のテストラボとして役に立つでしょう。 都市計画者、建築家、社会科学者、デザイナー、医療専門職者などが協力すれば、高齢化問題の解決策を見出すことができるはずです。個人や家族が感情的にも肉体的にも高齢化を前向きな経験として捉えられるように、そして国家レベルでは財政的に持続可能な状態にできるように。

デンマークのSaettedammen¹² のように、意図的な 多世代住宅のようなアイデアは、文化的な常識に挑戦しながらも、創造的な新しい方法で現在の考え方を拡げる可能性があります。過去半世紀の世界的なの人口、社会、経済の変化には国境を越えた解決策が必要です。

図4: 労働人口(20-64歳)に占める65歳以上の人口割合



参考資料

- https://www.indexmundi.com/japan/ age_structure.html
- https://www.oecd.org/japan/Health-at-a-Glance-2017-Key-Findings-JAPAN-in-English.pdf
- Ipsos Global Advisor The future of ageing: https://www.ipsos.com/ sites/default/files/ct/publication/ documents/2019-02/ipsos-globaladvisor-perennials-future-ofageing-2019.pdf
- http://worldpopulationreview.com/ countries/median-age/

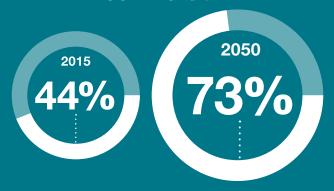
- For the WHO definition of super-ageing society, see: https://www.un.emb-japan. go.jp/jp/statements/okamura071316.html
- https://read.oecd-ilibrary.org/economics/ japan-promoting-inclusive-growth-for-anageing-society_9789264299207en#page1, page 16
- https://read.oecd-ilibrary.org/economics/ japan-promoting-inclusive-growth-for-anageing-society_9789264299207en#page1, page 5
- https://www.japantimes.co.jp/ news/2018/09/17/national/numberwomen-japan-aged-least-65-years-oldtops-20-million-first-time/#.XMKlk9jgrcs

- Source: Pensions at a Glance 2017 © OECD 2017
- "Japan tries to keep the elderly out of the hospital", The Economist, Jan 10, 2019.
- https://soranews24.com/2019/04/12/ man-stops-train-from-leaving-station-injapan-video-goes-viral-online/
- https://www.oecd.org/japan/PAU2017-JPN-En.pdf
- https://www.pbs.org/newshour/show/ cohousing-communities-help-preventsocial-isolation

数字で見る日本

平均寿命は世界最高

高齢者扶養率



高齢者になることに 期待を寄せているのは

(日本が世界で2番目に 悲観的な国とされる要因)

75歳以上の女性の貧困





そのうち…







Deanna Elstrom, Public Affairs, Japan, Ipsos Fumiya Shirahama, Research Manager, Japan, Ipsos Takayuki Higuchi, Research Manager, Japan, Ipsos

www.ipsos.com @lpsos

The **Ipsos Views** white papers are produced by the **Ipsos Knowledge Centre.**

GAME CHANGERS

<< Game Changers >> is the **Ipsos** signature.

At **Ipsos** we are passionately curious about people, markets, brands and society. We make our changing world easier and faster to navigate and inspire clients to make smarter decisions. We deliver with security, simplicity, speed and substance. We are Game Changers.

